

事業所における自己評価結果(公表)

※児童発達支援

公表: 令和4年 5月 3日

事業所名 どれみ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	二部屋を使い分けて療育を実施しているが遊び方によっては、1階プレイスペースも使用することがある	
	2 職員の配置数は適切である	100%	0%	担当職員だけでなく、記録係を配置して保護者の方と話をしやすい状況を作っている	次年度に多くの利用者の受け入れができるよう、職員配置を検討している
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	67%	33%	TEACCHプログラムに基づいて構造化・視覚支援等の環境整備をしている	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	療育後には掃除をし、課題・おもちゃ等の消毒をして感染症対策を行っている	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	67%	33%	担当の職員だけでなく、記録係の職員が参加し、一緒に療育の振り返りを行っている	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		評価表から把握した意向や情報を基に、業務改善に繋げていく
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページに公開している	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	33%	67%	コロナウイルスの影響で参加できないこともあったが、月に一度の学習会を実施している。	定期的な研修・ミーティング等ができるように検討する
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	アセスメントで得た情報や日々の記録や基に分析を行い、保護者の方と話し合いながら支援計画を作成しています。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0%	100%	アセスメントツールは使っていませんが、療育前に保護者の方から丁寧に聞き取りを行っている	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	67%	33%		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	支援計画に沿ったプログラムに加え、日々の様子を聞きながら、臨機応変に支援プログラムを変更することもある	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	67%	33%	個別療育は主に担当職員がプログラムを考えている	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	児童一人ひとりに合わせたプログラムを考えている	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	個別療育と集団療育とは別の取り組みとして実施している	個別療育と集団療育を併用して利用している児童については、両方の面からの支援計画を作成し、支援にあたっている

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	療育前に打ち合わせを行ない、プログラム内容や子どもの様子などの確認をしている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	療育後は、振り返りと次のプログラムについて検討を行ない、課題の準備をしている	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	毎回療育の記録や集団活動の記録を残し、支援方法の検討に役立てている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	67%	33%	半年に一度モニタリングを行っているが、コロナウイルスの影響により簡易的な面談や、電話での対応になった	保護者の希望を聞きながら、電話やオンラインを活用した聞き取りも実施していく
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	0%	0%	該当児童がいなかった	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	33%	67%		必要に応じて情報共有を行っていますが、積極的に連携を取れていない
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	0%	対象児がいらない	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	0%	対象児がいらない	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	67%	33%	必要に応じて見学をしていただく等情報の共有を行うことがある	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	33%	67%	お子様の特性や支援方法について学校にも伝えることができるよう、保護者の方のサポートを行うこともある	今後も保護者の方から希望があった場合は、学校間と連絡を取り合い情報共有を行っていく
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	33%	67%	中河内圏域の交流会に参加し、法人の取り組みを発表する機会を設けた	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0%	100%		実施できていない
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100%	0%	自立支援協議会には参加している	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳や療育の報告書を通して、児童の課題等の情報共有を行なっている	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0%	100%		実施できていない
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	利用前の面談にて説明を行い、了承を得ている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	面談での聞き取りや検査等の様子をふまえた上で支援目標を作成し、保護者の方の同意を得て支援を実施している	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	相談がある時には迅速に対応して助言や情報提供をしている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	67%	33%	コロナウイルスや緊急事態宣言の影響により、オンラインを活用して交流会を実施した	引き続きオンラインでの取り組みを充実させていく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		迅速かつ適切に対応ができるよう体制を整えていく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	定期的に発行している法人の会報にステラの情報も掲載している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	厳重な管理を行い、個人情報を外部に使用する際には事前の承諾を得ることを徹底している	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	それぞれのケースや事情に合わせた情報伝達方法を行っている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	コロナウイルスの影響で毎年行っている行事がなくなってしまったため、地域の方を招待しての催し物はなかった	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	67%	33%	各委員会でマニュアルを策定している	保護者の方にもマニュアルの内容を知っていただけるよう、面談時に説明していく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	避難計画書を作成し、避難場所(近くの小学校)までの経路の確認、注意する点などを整理した	定期的に避難訓練を実施していく
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	支援前に健康状態の確認を行っている。てんかんがある児童については指示書を預かり、医師の指示に沿った対応ができるよう職員間で周知している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	アレルギーのある児童については指示書を提出してもらい、除去食が必要な児童は持参してもらっている	アレルギーに限らず食事の提供については、保護者の方とも相談しながら決めていく
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	安全管理委員会を設置し、委員が中心となってヒヤリハット・アクシデント報告を基に検討を行っている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	33%	67%		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	0%	0%	該当する児童がいなかった。やむを得ない場合に身体拘束を行なう必要があるケースについては、保護者の方に説明と同意を得て計画に記載する	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。